



私たちが、大切に思っていることです。 一人ひとりの心に“やさしさ”の種をまき、育てていきましょう!



1. 望ましい人間観

あなたのまわりに、障害児・者、認知症の高齢者、不登校の子ども達などをいたずらに好奇の目で見たり、背を向けたりする人はいませんか。これは、知らないことからくる先入観や、どう接していいかわからないことによるものです。偏見、特別視、誤った優越感などは、人間の歴史、社会、理性などに関する正しい知識、理解が不足していることから起こります。幸せな暮らし、社会にするためには、一人ひとりが望ましい人間観を育てることが大切です。

(1) いろいろな人がいることを理解し、認め合うことの大切さ

地球上にはさまざまな人が生活しています。そして、肌の色、生まれた土地、言葉、生活習慣などが原因で、戦争や暴力、差別など悲しいできごとが多く起こっています。こうした悲しいできごとは、私たちの身近にもあります。

(2) 障害について正しく理解することの大切さ

自分で好んで心や体の障害、認知症、学習障害などになる人はいません。また、何かの罰や宿命などの結果でもありません。障害があるなしという見かけではなく、その奥にあるそれぞれの“いのち”のあるがままを肯定する感性と理性に導くことが大切です。

(3) 自立し、社会とつながって生きていたいという願いを理解することの大切さ

私たちは、いろいろな人たちとのふれあいを通して感情が豊かになり、生きることの充足感や、生きがいを感じます。社会とつながって暮らすということが人間本来のあり方なのです。障害児・者、高齢者などを隔離するような社会のあり方は、望ましい姿とはいえません。誰もが、社会のなかで自立し、人とふれあいながら、社会生活をおくりたいと思っています。

2. 福祉の心

福祉の心は、人と人、人と社会とのかかわり方の基本です。社会全体が共有すべきものなのです。私たちの日々の暮らしで出会ういろいろな場面が、福祉の心を育てる場になります。

(1) 役に立つことのよろこびを

人は、多くの人との関わり合いの中で生きています。役立つことの喜びを体験し知るとは、関わり合いを実感させ、それを肯定し、自分やまわりの人、社会への前向きな態度を養います。多くの人に役に立つことの喜びを知ってほしいと思います。

(2) 想像できる力、思い合う心を

相手の立場に立って考え、相手の心の動き、よろこび、悲しみなどを想像できる力を養うことが大切です。日常の出来事を使って、他人の心、状況などを想像し、思い合う心を育ててほしいと思います。

※社会福祉法人広島市社会福祉協議会「福祉教育ガイドブック」より



このシートを使って下さい。
“ほっとけん!”を、丈夫な大木に育てるために。



ヒント1 この絵のなかの“ほっとけん!”

点字ブロックの上の自転車や荷物 入口の段差 白い杖をもった人 お店に入ろうとしている車椅子の人 駐車場の車椅子マーク。

ヒント2 “車いす体験プログラム”のポイント

車椅子を使っているのはどんな人か、車椅子の役割・機能、使う人の気持ちなどを、この絵をヒントに想像してみましょう。そして、自分たちにできることを考えてみましょう。

ヒント3 “視覚障害疑似体験プログラム”のポイント

疑似体験グッズを使って、「視覚障害」の人の日常生活のし辛さ、不自由さを感じてください。そして、感想を出し合い、そこからどんな気持ちが生まれたかを話し合ってみましょう。

ヒント4 “ほっとけん!”の心で見直すと…いつもと違う

“ほっとけん!”の心で、友だちや家族のことを想像してみましょう。いつもと違う、友だち、家族の顔が思い浮かびませんか。まわりみんなが、あなたの“ほっとけん!”を待っています。

ヒント5 “ほっとけん!”が、お互いが楽しくなる関係作りの出発点

“ほっとけん!”と思うのは、ほかの人のことを感じたり、想像できる力があるからです。その力を養うことが、より良い人間関係づくりにつながっています。“ほっとけん!”気持ちや行為を認め、ほめることは、“ほっとけん!”を育てる栄養素のひとつです。